



人々の生活の場をデザインする 都市計画マスタープランのあり方

野澤 康 建築学部 まちづくり学科 教授

キーワード: 都市計画、マスタープラン、人口減少、高齢化、地方自治体、ひと、もの

概要

わが国が全国的に高齢化・人口減少の時代を迎える中、都市計画のあり方も変革が求められている。現在の都市計画法に定める大きな都市計画の枠組みは、1968年に定められたもので、高度経済成長の真只中につくられたものである。都市計画マスタープランは、1992年の法改正によって市町村にその策定が義務づけられたものであるが、そこから既に約30年が経過し、マスタープラン自体のあり方も、時代に合わせて適切に変化していく必要がある。

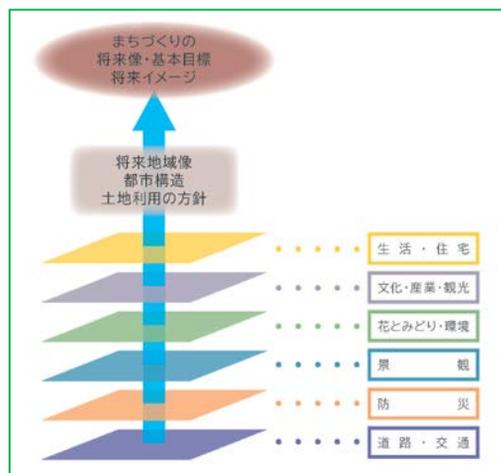
都市計画マスタープランの初期段階では、都市計画が担うべきいわゆる「ハード」の施策に限定して言及するものとして、道路・公園などの公共空間の整備方針や、建築物の高さ・形態等の制限を加えるための方針などに特化するきらいがあった。しかし、様々な政策が「もの」から「ひと」へと転換されてきており、都市計画も例外ではないと言える。

アピール ポイント

近年、策定委員会メンバーとして策定を進めた都市計画マスタープランは、人とその日常生活を中心に据えて、その舞台としての都市空間のあり方を計画・デザインすることに転換してきている。

2019年3月に策定された「台東区都市計画マスタープラン」では、区民の生活を中心に据えた議論を展開し、日常生活、仕事、観光、移動などの快適性や利便性、安全性を実現する舞台としての都市空間の将来像を示した。図のように、ベーシックな都市構造(ハード)が生活を支えるという図(これまでの計画だと、上下が逆になる)が、このことを象徴している。

また、町田市で策定中(2022年3月策定予定)の(仮称)「都市づくりのマスタープラン」は、いわゆる「ハード」のまちづくりだけではなく、広く市民生活に関わること全般に都市計画の立場からアプローチしようとしている。つまり、単にひとつの分野別計画に留まらず、都市計画が様々な分野への司令塔のような役割を果たすべく、マスタープランを構築しようとしている。



台東区都市MP分野別まちづくり方針のレイヤー
(「台東区都市計画マスタープラン」より)

利用・用途 応用分野

こうした考え方は、マスタープランに限ったことではない。都市空間を整備・更新することを通して、人々の生活をより豊かにしていくことを考えるために、台東区や町田市でのトライアルを応用・発展させていくことができる。それこそが、人口減少・高齢化が進む成熟社会における現代の都市において求められているものであろう。

関連情報

● 関連論文 = 野澤 康「都市計画と住宅マスタープラン」、『住宅』(日本住宅協会)69巻9号, pp.18-23, 2020.9

● 関連 URL = 台東区都市計画マスタープラン

https://www.city.taito.lg.jp/smph/index/kurashi/kenchiku/keikaku/toshikeikaku/urban_masterplan.html
(仮称)町田市都市づくりのマスタープラン

<https://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/sumai/toshikei/toshikeikaku/masterplan-kentou.html>